
User's Manual

Model 707712 WVFファイルアクセスAPI ユーザーズマニュアル

IM 707712-61J
初版

ユーザー登録のお願い

今後の新製品情報を確実にお届けするために、お客様にユーザー登録をお願いしております。下記 URL の「製品のユーザー登録」のページで、ご登録いただけます。

<http://www.yokogawa.com/jp-ymi/tm/Bu/>

計測相談のご案内

当社では、お客様に正しい計測をしていただけるよう、当社計測器製品の仕様、機種を選定、および応用に関するご相談を下記カスタマサポートセンターにて承っております。なお、価格や納期などの販売に関する内容については、最寄りの営業、代理店にお問い合わせください。

横河メータ & インスツルメンツ株式会社 カスタマサポートセンター

一般測定器

フリーダイヤル
 0120-137046
tmi-cs@csv.yokogawa.co.jp

ファクシミリ
FAX 042-534-1491

現場測定器

フリーダイヤル
 0120-137046
csgr@mcc.yokogawa.co.jp

ファクシミリ
FAX 042-534-1491

【フリーダイヤル受付時間：祝祭日を除く月～金曜日の 9：00 ～ 12：00、13：00 ～ 17：00】

はじめに

このたびは、WVFファイルアクセスAPI(Model 707712)をお買い上げいただきましてありがとうございます。

このユーザズマニュアルは、WVF ファイルアクセス API のインストール方法、プログラムモデル、関数などについて記述したものです。ご使用前にこのマニュアルをよくお読みいただき、正しくお使いください。

お読みになったあとは、ご使用時にすぐにご覧になれるところに、大切に保存してください。ご使用中に取り扱いがわからなくなったときなどにきっとお役に立ちます。

ご注意

- 本書の内容は、WVFファイルアクセスAPI Ver. 1.0.1 に対応しています。このバージョン以外のWEコントロールAPIをお使いのときは、本書に記載の内容と異なることがあります。
- 本書の内容は、性能・機能の向上などにより、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容に関しては万全を期していますが、万一ご不審の点や誤りなどお気づきのことがありましたら、お手数ですが、当社支社・支店・営業所またはお買い求め先までご連絡ください。
- 本書の内容の全部または一部を無断で転載、複製することは禁止されています。

商標

- Microsoft, Windows および Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Adobe および Acrobat は、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の商標です。
- その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

履 歴

2003 年 7 月 初版発行

ソフトウェア使用許諾契約書

ご使用前に必ずお読みください。

このたびは横河電機株式会社(以下「横河電機」)のソフトウェアをご購入いただきまして誠にありがとうございます。お客様がこのパッケージを開封された場合には、下記の「ソフトウェア使用許諾契約書」に同意したものとみなします。横河ソフトウェアは当社の著作物であり、同ソフトウェアを開封のうえ、インストールし、ご使用されるにあたっては、下記の「ソフトウェア使用許諾契約書」を必ずお読みのうえ、ご承諾いただくようお願いします。ご承諾いただけない場合には、パッケージを開封しないでください。

ソフトウェア使用許諾契約書

お客様が本ソフトウェア使用許諾契約書(以下、「本契約」といいます)に合意することを条件として、横河電機株式会社(以下、「当社」といいます)は、包装されたソフトウェア製品(以下、「横河ソフトウェア」といいます)の使用権をお客様に許諾します。なお、当社は、横河ソフトウェアの使用権をお客様に許諾するものであり、横河ソフトウェアを販売するものではありません。

製品 : Model 707712 VWFファイルアクセスAPI
ライセンス数 : 1ライセンス

第1条(適用範囲)

- 本契約は、当社がお客様に提供する横河ソフトウェア製品に適用するものとします。
- 横河ソフトウェアは、それに含まれる一切の技術、アルゴリズム、およびプロセスを包含するものとします。

第2条(使用権の許諾)

- お客様は、横河ソフトウェアについて、別途合意した使用料を対価として、前文に定めるライセンス数に対応する台数のコンピュータに限りインストールできるものとし、当社は、お客様の自己使用を目的とした、非独占的かつ譲渡不能の使用権(以下「使用権」といいます)を許諾します。
- お客様は、当社の事前の書面による承諾なしに、横河ソフトウェアを第三者に頒布、転貸、複製、譲渡、質入、伝送もしくは再使用権を許諾しないものとします。
- お客様は、バックアップ目的として一組のみ横河ソフトウェアを複製する以外は、横河ソフトウェアの全部または一部を複製しないものとします。また当該複製物の保管および管理については厳重な注意を払うものとします。
- お客様は、いかなる理由においても横河ソフトウェアをダンプ、逆アセンブル、逆コンパイル、リバースエンジニアリングなどによるソースプログラムその他人間が読み取り可能な形式への変換もしくは複製または横河ソフトウェアの修正もしくは他の言語への翻訳など、提供された形式以外に改変しないものとします。また、当社は、別に同意しない限り、お客様にソースプログラムを提供しないものとします。
- 横河ソフトウェアおよびそれらに含まれる一切の技術、アルゴリズム、およびプロセスなどのノウハウは、当社または当社に対し再使用許諾を含む使用許諾権を付与している第三者の固有財産であり、当社または当社に対し再使用許諾権を付与している第三者が権利を有しているものであり、お客様に権利の移転や譲渡を一切行うものではありません。
- 当社は、横河ソフトウェアに保護の機構(コピープロテクト)を使用または付加することがあります。当該コピープロテクトを除去したり、除去を試みることは認められないものとします。
- 横河ソフトウェアには、当社が第三者から再使用許諾を含む使用許諾権を付与されているソフトウェアプログラム(以下「第三者プログラム」といいます)の関連会社が独自に製作・販売しているソフトウェアプログラムもこれに含まれます)を含む場合があります。かかる第三者プログラムに関し、当社が当該第三者より本契約と異なる再使用許諾条件を受け入れている場合には、別途書面により通知される当該条件を遵守していただきます。

第3条(特定用途に関する制限)

- 横河ソフトウェアは、下記の各号を目的として、製作または頒布されるものではありません。
(a)航空機の運行または船舶の航行や、これらを地上でサポートする機器の立案、設計、開発、保守、運用および使用されること。
(b)原子力施設の立案、設計、開発、建設、保守、運用および使用されること。
(c)核兵器、化学兵器または生物兵器の立案、設計、開発、保守、運用および使用されること。
(d)医療機器などの人身に直接関わるような状況下で使用されることを目的に立案、設計、開発、保守、運用および使用されること。
- お客様が前項の目的で横河ソフトウェアを使用する場合には、当社は当該使用により発生するいかなる請求および損害に対しても責任を負わないものとし、お客様は、お客様の責任においてこれを解決するものとし、当社を免責するものとします。

第4条(保証)

- 横河ソフトウェアは、当該製品完成時または出荷時の現状のままでお客様に提供されるものとし、お客様は、これに合意するものとします。横河ソフトウェアの記録媒体に破損、損傷が発見された場合は、開封後7日間に限り無償で交換をいたします(お客様の費用で当社の指定するサービス拠点に当該ソフトウェア製品の記憶媒体を送付していただくものとし、かかる場合であっても横河ソフトウェアに瑕疵のないこと、的確性、正確性、信頼性もしくは最新性などの品質上または性能上の明示または黙示の保証をするものではありません。また、横河ソフトウェアが他のソフトウェアとの間で不整合、相互干渉などの影響のないことを保証するものでもありません)。
- 前項の規定に関わらず、横河ソフトウェアに第三者プログラムが存在する場合の保証期間、保証条件については、かかるプログラムの供給者の定めるところによるものとします。
- 当社は、自己の判断により必要と認めた場合、横河ソフトウェアに関するレビジョンアップおよびバージョンアップ(以下、アップデートサービスといいます)を実施することがあります。
- 前項の定めにも拘らず、当社は、いかなる場合であってもお客様により改変または修正された横河ソフトウェアに関するアップデートサービスについては、第三者により改変・修正された場合を含め、一切対応しないものとします。

第5条(特許権、著作権の侵害に関する損害賠償責任)

- お客様は、横河ソフトウェアについて、第三者から特許権、商標権、著作権その他の権利に基づき使用の差し止め、損害賠償請求などが行われた場合は、書面にて速やかに請求の内容を当社に通知するものとします。
- 前項の請求などが当社の責に帰すべき事由による場合は、その防御および和解交渉について、お客様から当社に防御、交渉に必要なすべての権限を与えていただき、かつ必要な情報および援助をいただくことを条件に、当社は自己の費用負担で当該請求などの防御および交渉を行い、前項記載の第三者に対して最終的に認められた責任を負うものとします。
- 当社は第1項における請求またはその恐れがあると判断した場合は、当社の選択により、当社の費用で下記のいずれかの処置を取るものとします。
(a)正当な権利を有する者からかかる横河ソフトウェアの使用を継続する権利を取得する。
(b)第三者の権利の侵害を回避できるようなソフトウェア製品と交換する。
(c)第三者の権利を侵害しないようにかかる横河ソフトウェアを改造する。
- 前項各号の処置がとれない場合、当社は、お客様から当社にお支払い頂いた第2条第1項に定める使用料の対価を限度として損害を賠償するものとします。

第6条(責任の制限)

本契約に基づいて当社がお客様に提供した横河ソフトウェアによって、当社の責に帰すべき事由によりお客様が損害を被った場合は、当社は、本契約の規定に従って対応するものとし、いかなる場合においても、派生損害、結果損害、その他の間接損害(営業上の利益の損失、業務の中断、営業情報の喪失などによる損害その他)については一切責任を負わないものとし、かつ当社の損害賠償責任は、かかる横河ソフトウェアについてお客様からお支払いを受けた第2条第1項に定める使用料の対価を限度とします。なお、当社が納入した製品をお客様が当社の書面による事前の承諾なく改造、改変、他のソフトウェアとの結合を行い、またはその他基本仕様書または機能仕様書との相違を生ぜしめた場合は、当社は一部または全ての責任を免れることができるものとします。

第7条(輸出規制)

お客様は、事前に当社の同意を得た場合を除き、横河ソフトウェアを、直接、間接を問わず輸出または他国に伝送しないものとします。

第8条(本契約の期間)

本契約は、お客様が横河ソフトウェアを受領した日から、契約解除されない限り、お客様または当社が相手方に対し、1ヶ月前に書面による通知によって当該ソフトウェア製品の使用を終了させるまで、またはお客様の横河ソフトウェアの使用終了時まで、有効とします。

第9条(使用の差し止め)

横河ソフトウェアの使用許諾後といえども、使用環境の変化または許諾時には見出せなかった不適切な環境条件が見られる場合、その他横河ソフトウェアを使用するに著しく不適切であると当社が判断した場合には、当社はお客様に対して当該使用を差し止めることができるものとします。

第10条(解除)

当社は、お客様が本契約に違反した場合には、何ら催告を要することなく通知をもって本契約を解除できます。ただし、本契約終了または解除後といえども第5条、第6条ならびに第11条は効力を有するものとします。

第11条(管轄裁判所)

本契約に関して生じた紛争、疑義については、両者誠意を持って協議解決するものとします。ただし、一方当事者が他方当事者に協議解決をしたい旨の通知後90日以内に両当事者間で協議が整わない場合は東京地方裁判所(本庁)を第一審の専属的管轄裁判所とします。

以上

目次

はじめに	1
ソフトウェア使用許諾契約書	2
1. 概要	1-1
2. インストール	2-1
3. ファイル操作関数	3-1
3.1 基本モデル	3-1
3.2 ファイル形式	3-1
3.3 測定データ書き込み操作時のモデル	3-2
3.4 測定データ読み込み操作時のモデル	3-4
3.5 共通情報構造型・チャンネル情報構造型	3-8
3.6 関数一覧	3-10
3.7 単一ファイルアクセス	3-11
単一ファイルのヘッダファイル読み込み WeDPHeaderReadS	3-11
単一ファイルのデータファイル読み込み WeDPDataRead	3-11
単一ファイルのヘッダファイル書き込み WeDPHeaderWriteS	3-12
単一ファイルのデータファイル書き込み WeDPDataWrite	3-13
3.8 連番ファイルアクセス	3-15
連番ファイルのヘッダファイル読み込み WeDPHeaderCsReadS	3-15
連番ファイルのデータファイル読み込み WeDPCsRead	3-16
連番ファイルのヘッダファイル書き込み WeDPHeaderCsWriteS	3-17
連番ファイルのデータファイル書き込み WeDPCsWrite	3-18
3.9 ヘッダファイルの指定項目へのアクセス	3-19
ヘッダファイルの指定した項目のデータを読み込み WeDPHeaderItemRead	3-19
ヘッダファイルの指定した項目へのデータ書き込み WeDPHeaderItemWrite	3-20
3.10 データ操作	3-21
サンプル数・チャンネル数の取得 WeDPGetSampleChNum	3-21
ブロック数の取得 WeDPGetBlockNum	3-21
データ情報構造体にデータをセット WeDPInitializeAcqInfo	3-22
3.11 C言語インタフェース一覧	3-24
4. エラーコード	4-1
索引	索-1

1. 概要

このユーザーズマニュアルでは、波形データファイル(wvfファイル)をアクセスするためのインタフェース関数(WVF ファイルアクセス API)について説明しています。

WVF ファイルアクセス API は、Microsoft Windows のダイナミックリンクライブラリ(以降 DLL と称します)で作成されています。Microsoft Visual C++, Microsoft Visual Basic などの Win32 プログラム開発環境で利用することができます。

添付ファイル一覧

ファイル名	内容
WeAscii.bas	VisualBasic 言語用定数定義ファイル
WeDP.bas	VisualBasic 言語用ファイルアクセス関数 API 定義ファイル
*.dll	WVF ファイルアクセス API で必要な DLL ファイル
WeAscii.h	Visual C++ 言語用定数定義ファイル
WeDP.h	Visual C++ 言語用ファイルアクセス関数 API 定義ファイル
WeDP.pdf	WVF ファイルアクセス API オンラインマニュアル (表示するには、Adobe Acrobat Reader 3.0J 以上が必要です。)
WeFileAccess.dll	.Net 開発環境用 DLL ファイル

上記定義ファイルには、API 中で利用するシンボル、データ構造体などが定義されています。ユーザーアプリケーションプログラムの中で、必ずインクルードしてご使用ください。

上記のファイルのうち、DLL ファイルを除くファイルは、デフォルトでは、「C:\Program Files\WE7000\API」のディレクトリにコピーされます。DLL ファイルは、上記のほかに下記のディレクトリにコピーされます。

Windows 95/98/Me の場合 : Windows\System

Windows NT4.0, 2000 Pro, XP Professional/Home Edition の場合 : Windows\System32

対応OS

Microsoft Windows 95/98/Me, Windows NT 4.0, Windows 2000 Pro または Windows XP Professional/Home Edition

対応開発環境

Microsoft Visual Basic 5.0, 6.0, .Net

Microsoft Visual C++6.0, .Net

Microsoft Visual C#.Net

適応機種

WE7000

DL708, DL708E, DL716, DL750

DL1720, DL1740

DL1600 シリーズ

DL1500 シリーズ

DL7100, DL7200

DL7400 シリーズ

Note

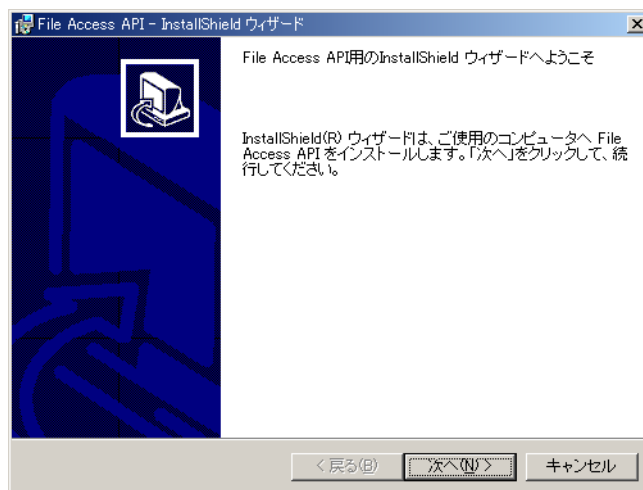
.Net 対応クラスライブラリのクラス名・関数名について

- ・ 名前空間は、WeFileAccess です。クラス名は、WeFile です。
- ・ .Net 用関数は、本文で説明している “WeDPxxxx” 関数の “WeDP” を取った関数名になります。

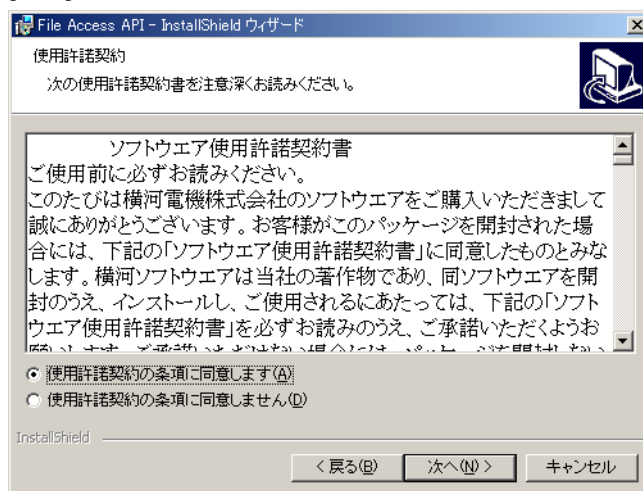
2. インストール

ここでは、WVF ファイルアクセス API をインストールする手順について説明します。

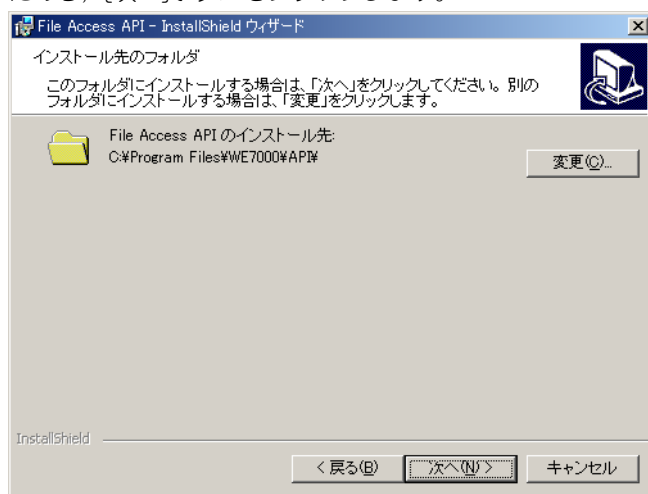
1. WVFファイルアクセスAPIのインストールディスクをPCのCD-ROMドライブにセットすると、自動的にインストーラが起動し、下図のダイアログボックスが表示されます。[次へ]をクリックします。



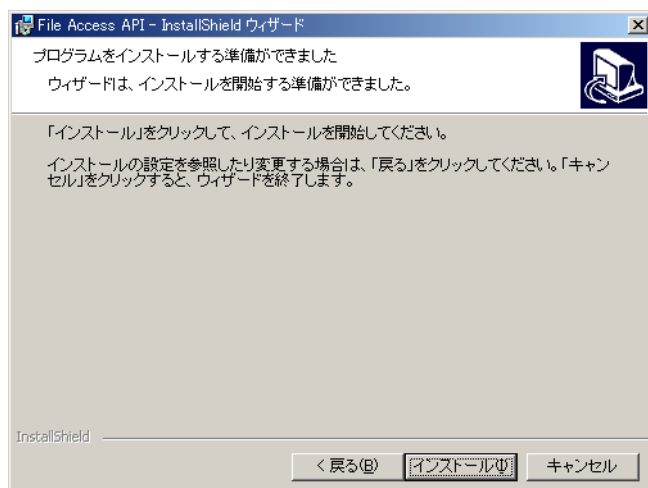
2. 使用許諾契約書に同意していただくために、下図のようなダイアログボックスが表示されます。使用許諾契約書を確認し、[使用許諾契約の条項に同意します]のラジオボタンをクリックしたのち、[次へ]をクリックします。



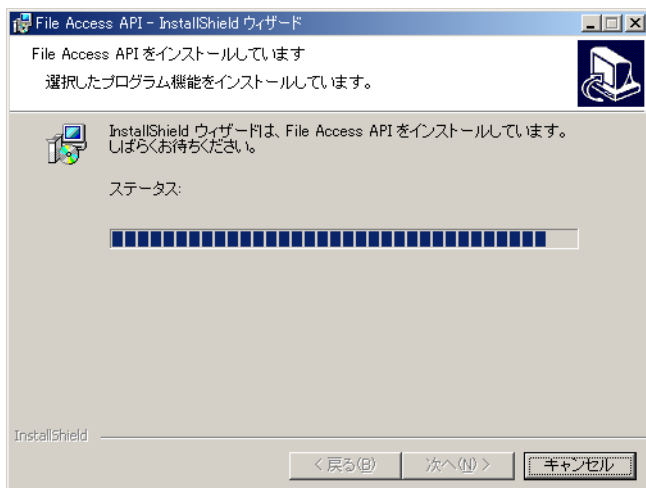
3. インストール先を指定するダイアログボックスが表示されます。インストール先の初期設定は[C:\Program Files\WE7000\API\]になっています。OKであれば、[次へ]ボタンをクリックします。インストール先ディレクトリを変更する場合は、[変更]をクリックしてディレクトリを選択したのち、[次へ]ボタンをクリックします。



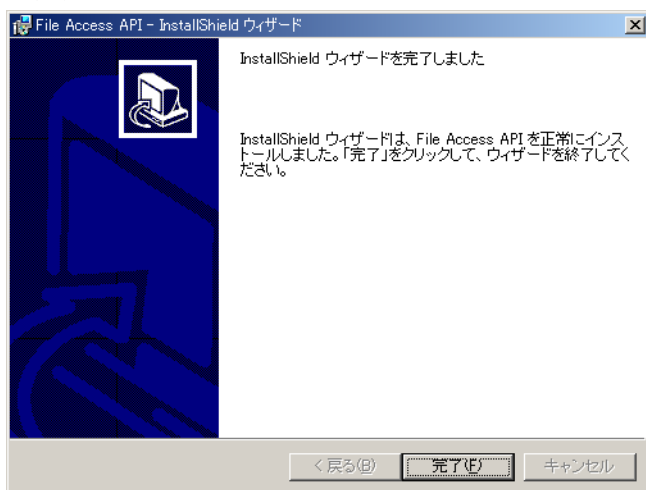
4. インストールの開始を確認するためのダイアログボックスが表示されます。[インストール]をクリックします。



5. インストールが開始され、下図のようなインストール状況を示すダイアログボックスが表示されます。



6. インストールが終了すると、下図の画面が表示されます。[完了]をクリックしてインストール作業を終了します。



3. ファイル操作関数

3.1 基本モデル

測定データ書き込み操作では、1ブロックのデータを順次1つのファイルに追加していくモデル(単一ファイルモデル)と、1ブロックのデータごとに1ファイルを作成するモデル(連番ファイルモデル)の2つのモデルを想定し、関数を用意してあります。

測定データ読み込み操作では、複数ブロックに分けてデータが格納されているファイルからブロックを指定してデータを読み出すモデル(単一ファイルモデル)と、複数ファイルからサンプル数を指定してデータを読み出すモデル(連番ファイルモデル)の2つのモデルを想定し、関数を用意してあります。

3.2 ファイル形式

弊社独自のファイル形式(バイナリ形式で保存した測定データと同じ形式、以下では「wvf形式ファイル」と称します)です。

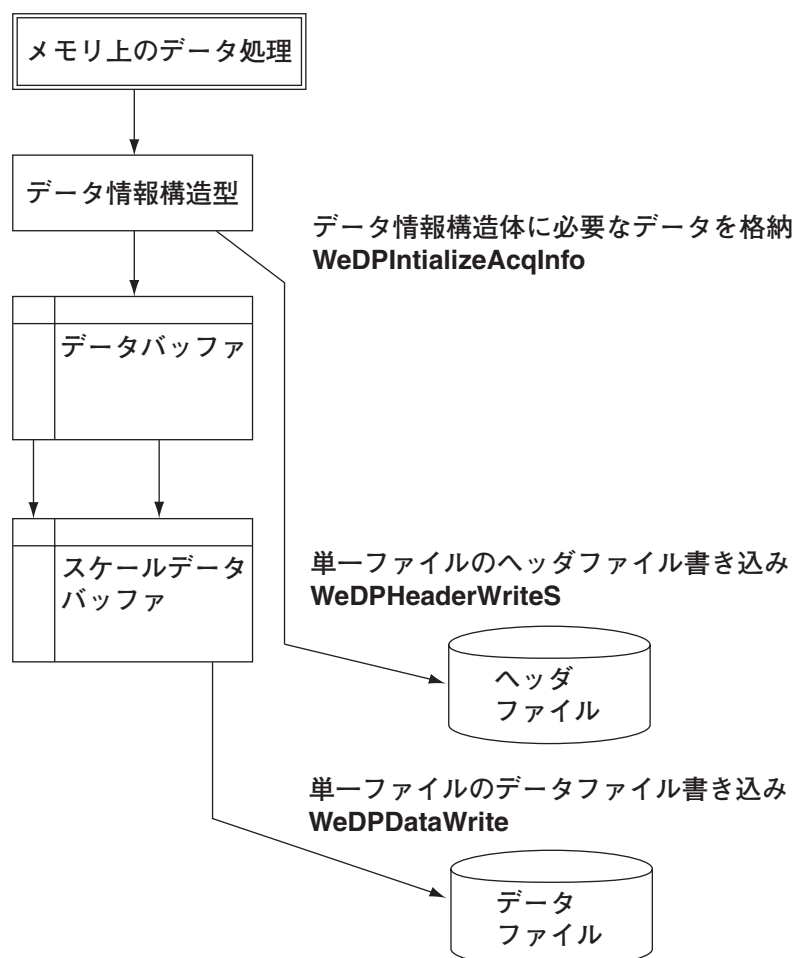
wvf形式ファイルの格納形式には、「block型」「trace型」「scan型」の3種類があります。本APIでは、wvf形式ファイルの格納形式を意識しないで、測定データを読み込むことができます。ただし、Scan型のファイルを読み込むときは、全データを1ブロックとみなします。本APIでは、wvf形式の「block型」でデータを格納します。

Note

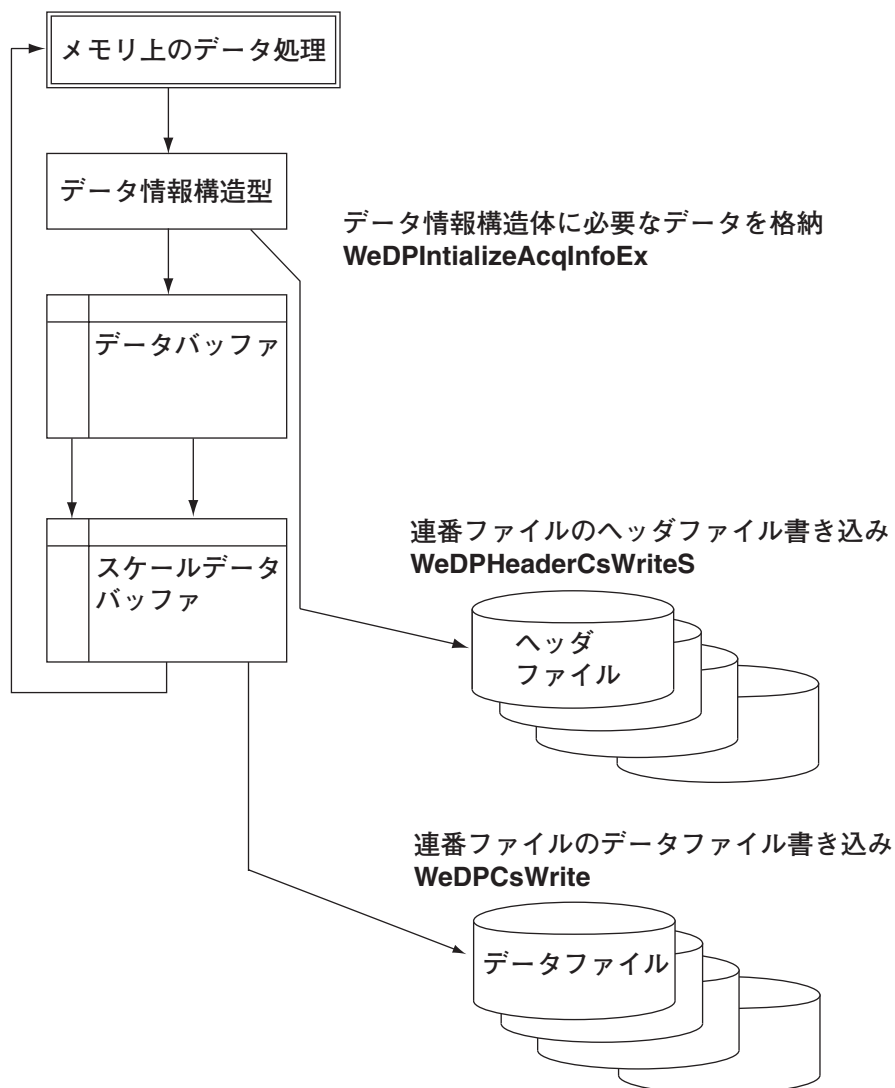
wvf形式ファイルの詳細は、弊社発行のテクニカルインフォメーション(TI7000-21)を参照してください。

3.3 測定データ書き込み操作時のモデル

アプリケーションプログラムで作成したデータの単一ファイルモデル(複数ブロックを同一ファイルに格納)



連番ファイルの作成(プログラムで作成したデータをブロックごとに1つのファイルに格納する)



3.4 測定データ読み込み操作時のモデル

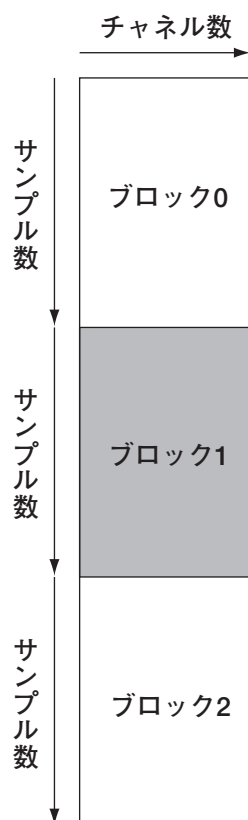
単一ファイルモデル(ブロック指定データ読み出し)



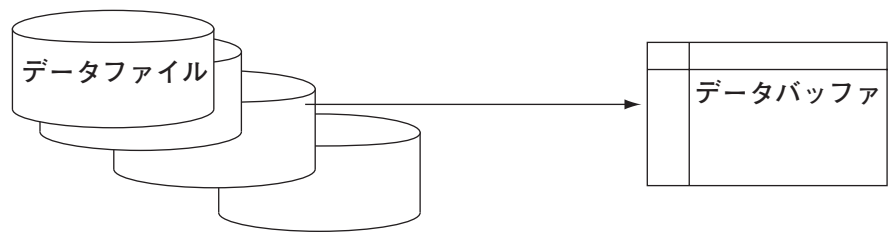
WeDPDataRead(FileName,BlockNo,ChNo,DataForm,DataBuf)

FileName : ファイル名(連番部分は記述しない)
BlockNo : ブロック番号(0～n)。
ChNo : チャンネル番号。「-1」は全チャンネルを意味します。
DataForm : データの型
DataBuf : データを格納するバッファへのポインタ。

WeDPDataRead ("FileName",1,-1,DATA_SINGLE,DataBuf)としたとき、下図の網掛け部のデータがDataBuf に格納されます。



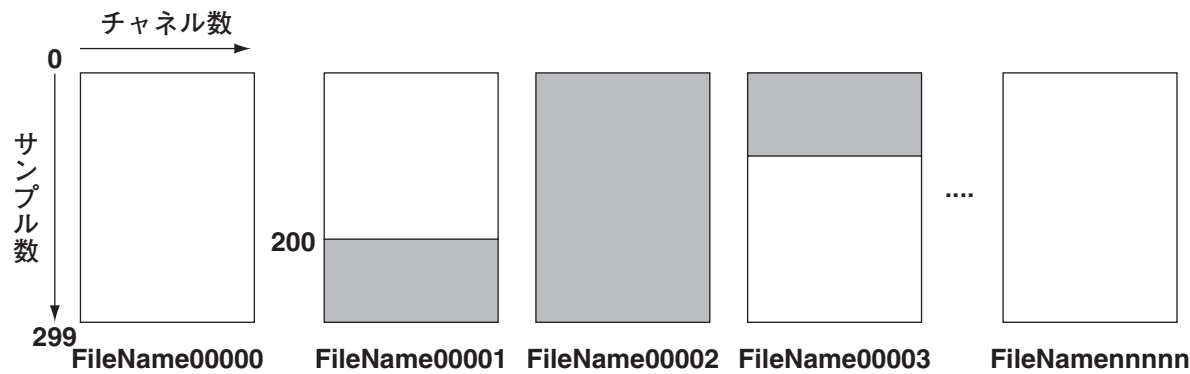
連番ファイルモデル(サンプル数指定データ読み出し)



WeDpCsRead(FileName, SeriesNo, Start, Length, ChNo, DataForm, DataBuff)

FileName : ファイル名(連番部分は記述しない)
SeriesNo : 開始連番。
Start : スタートサンプル番号。
Length : 1チャンネルあたりの読み出しデータ数。
ChNo : チャンネル番号を指定。「-1」は全チャンネルを意味します。
DataForm : DataBuffの型を指定。
DataBuff : データを格納するバッファへのポインタ。

WeDpCsRead("FileName", 1, 200, 500, -1, DATA_SINGLE, DataBuff)としたとき、下図の網掛け部のデータがDataBuffに格納されます。



このファイルには、「4チャンネル×300サンプル」のデータが格納されています。
データは、ヘッダファイル内のVResolutionおよびVOffsetを使ってスケール変換された値でメモリに格納されます。

連番ファイルのファイル検索方法

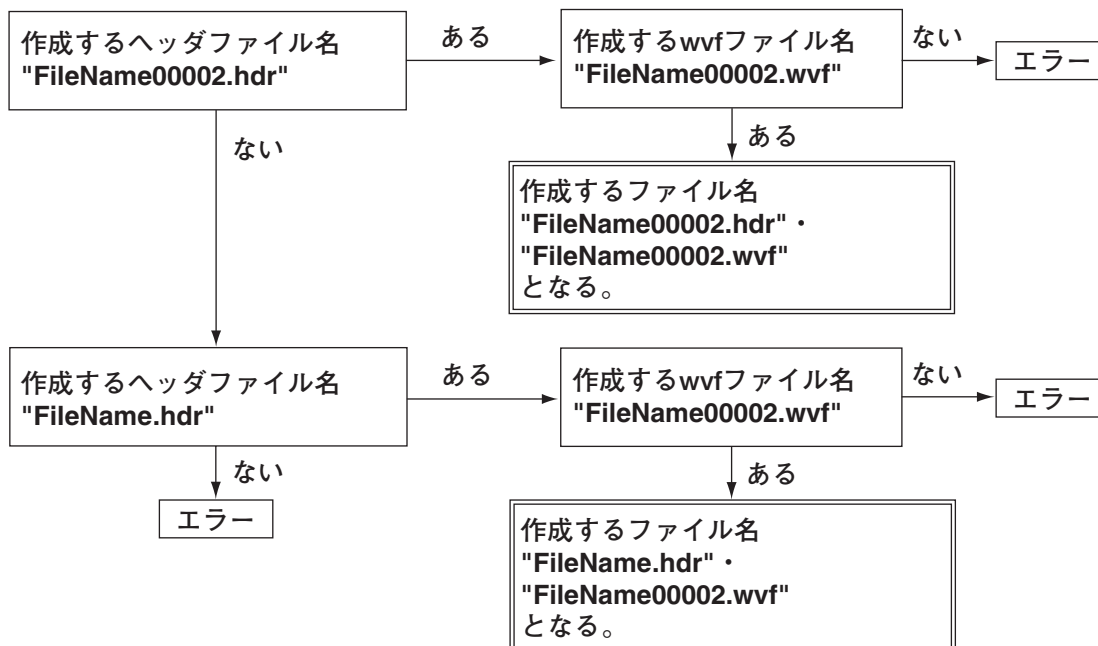
- ・ 連番に「-1」を指定したとき

WeDPCsRead("FileName",-1,200,500,-1,WE_FLOAT,DataBuff)

作成するファイル名
"FileName.hdr"・"FileName.wvf"
となる。

- ・ 連番に正の整数を指定したとき

WeDPCsRead("FileName",2,200,500,-1,WE_FLOAT,DataBuff)



ヘッダファイルの読み込み

- ・ 単一ファイルのヘッダファイルのファイル名

WeDPHeaderReadS(FileName,BlockNo,ComBuff(),ChBuff())

WeDPHeaderReadS("FileName", 2,ComBuff(),ChBuff())

FileName : "FileName"

BlockNo : 2

ComBuff() : ComBuff()

ChBuff() : ChBuff()のとき

FileName.hdrとなる。

- ・ 連番ファイルのヘッダファイルのファイル名

WeDPHeaderCsReadS(FileName,SeriesNo,ComBuff(),ChBuff())

WeDPHeaderCsReadS("FileName",2,ComBuff(),ChBuff())

FileName : "FileName"

SeriesNo : 2

ComBuff() : ComBuff()

ChBuff() : ChBuff()のとき

FileName00002.hdrとなる。

WeDPHeaderCsReadS("FileName",-1,ComBuff(),ChBuff())

FileName : "FileName"

SeriesNo : -1

ComBuff() : ComBuff()

ChBuff() : ChBuff()のとき

FileName.hdrとなる。

3.5 共通情報構造型・チャネル情報構造型

ユーザー定義型

X 軸データがすべてのチャネルで同一のときは、データ構造は下記のようになります。

- ・ 共通情報
Type CommonInf1
Comment As String*256 // コメント(255 バイト設定可能)
SampleNum As Long // サンプル数
ChanelNum As Long // チャネル数
SamplingInterval As Double // 測定周期
PreTrigger As Long // プリトリガ量
XUnit As String*16 // X 軸単位
Date As String*16 // 測定日付(15 バイト設定可能)
Time As String*16 // 測定時刻(15 バイト設定可能)
End Type
- ・ チャネル情報
Type ChanelInf1
ChanelName AS String*16 // チャネル名(15 バイト設定可能)
ScaleA As Double // スケーリング係数 A
ScaleB As Double // スケーリング係数 B
Unit As String*16 // 単位(15 バイト設定可能)
End Type

Note

現在のバージョンでは、X 軸データがすべてのチャネルで同一でないようなファイルは扱うことはできません。

ユーザー定義型とヘッダファイルの項目の対応

ユーザー定義	ヘッダファイルの項目
Comment	コメント行の文字列
SampleNum	BlockSize のブロック数分の和(先頭チャネルの情報)
ChanelNum	TraceTotalNumber の値
SamplingInterval	HResolution の値(先頭チャネルの情報)
PreTrigger	HOffset の値(先頭チャネルの情報)
XUnit	HUnit の値(先頭チャネルの情報)
Date	Date の値(先頭チャネルの情報)
Time	Time の値(先頭チャネルの情報)
ChanelName	TraceName の値(チャネルごと)
ScaleA	LinearVResolution の値(チャネルごと)
ScaleB	LinearVOffset の値(チャネルごと)
Unit	LinearUnit の値(チャネルごと)

アキュイジションデータ情報とヘッダファイルの項目の対応

アキュイジションデータの付属情報)の各項目とヘッダファイルの各項目の対応は下記ようになります。

アキュイジションデータ情報の項目	ヘッダファイルの項目
Comment	コメント行の文字列
Channel	—
Data Type	Vdata Type
Block Num	Block Number
Start Bit	—
Effective Bit	—
Trig Active	—
Record	Block Size
Record len	—
Trig Position	HOffset
Interval	HResolution
VResolution	VResolution
VOffset	VOffset
Trig Level	—
Trig Width	—
Plus Over Data	VPlus Over Data
Minus Over Data	VMinus Over Data
Non Data	VIllegal Data
Disp Max Data	VMax Data
Disp Min Data	VMin Data

本APIで測定データ書き込み時に作成されるWE7000のヘッダファイルの項目の設定内容は、下表のようになります。他の適応機種種のヘッダファイルについては、それぞれの製品に付属のユーザーズマニュアルをご覧ください。

項目名	設定内容
Format Version	1.01
Model	WE7000
Endian	Ltl
Data Format	Block
Group Number	測定データ書き込み時に格納データに合わせて自動生成
Trace Total Number	測定データ書き込み時に格納データに合わせて自動生成
Data Offset	0
Trace Number	測定データ書き込み時に格納データに合わせて自動生成
Block Number	測定データ書き込み時に格納データに合わせて自動生成
Trace Name	測定データ書き込み時に格納データに合わせて Ch1 から ChN まで設定
Block Size	アキュイジションデータ情報の Record
VResolution	アキュイジションデータ情報の VResolution
VOffset	アキュイジションデータ情報の VOffset
Vdata Type	測定データ書き込み時に引数から設定
VUnit	—
Vplus Over Data	アキュイジションデータ情報の Plus Over Data
Vminus Over Data	アキュイジションデータ情報の Minus Over Data
Villegal Data	アキュイジションデータ情報の Non Data
VMax Data	アキュイジションデータ情報の DispMax Data
VMin Data	アキュイジションデータ情報の DispMin Data
HResolution	CommonInf1 の SamplingInterval
HOffset	CommonInf1 の PreTrigger
HUnit	CommonInf1 の XUnit
Date	CommonInf1 の Date
Time	CommonInf1 の Time
PLinear Slope	CommonInf1 の ScaleA
PLinear Intercept	CommonInf1 の ScaleB
PLinear Unit	CommonInf1 の Unit
PTrace Name	CommonInf1 の ChannelName
PLinear Mode	"OFF"

3.6 関数一覧

単一ファイルアクセス

関数名	説明	ページ
WeDPHeaderReadS	単一ファイルのヘッダファイル読み込み	3-13
WeDPDataRead	単一ファイルのデータファイル読み込み	3-13
WeDPHeaderWriteS	単一ファイルのヘッダファイル書き込み	3-14
WeDPDataWrite	単一ファイルのデータファイル書き込み	3-15

連番ファイルアクセス

関数名	説明	ページ
WeDPHeaderCsReadS	連番ファイルのヘッダファイル読み込み	3-17
WeDPCsRead	連番ファイルのデータファイル読み込み	3-17
WeDPHeaderCsWriteS	連番ファイルのヘッダファイル書き込み	3-18
WeDPCsWrite	連番ファイルのデータファイル書き込み	3-19

ヘッダファイルの指定項目へのアクセス

関数名	説明	ページ
WeDPHeaderItemRead	指定した項目のデータを読み込む	3-21
WeDPHeaderItemWrite	指定した項目のデータを書き込む	3-22

データ操作

関数名	説明	ページ
WeDPGetSampleChNum	サンプル数・チャンネル数の取得	3-23
WeDPGetBlockNum	ブロック数の取得	3-23
WeDPInitializeAcqInfo	データ情報構造体に必要なデータを格納	3-24

3.7 単一ファイルアクセス

単一ファイルのヘッダファイル読み込み WeDPHeaderReadS

概要

ヘッダファイルからブロック指定でデータを読み出します。

インタフェース

WeDPHeaderReadS(ByVal FileName As String,ByVal BlockNo As Long,ByRef ComBuff() As CommonInf1,ByRef ChBuff() As ChanelInf1)

戻り値

正常終了したときは「0」、異常終了したときはエラーコードを返します。

引数

FileName (IN) ヘッダファイル名
BlockNo (IN) ブロック番号。読み出したいブロック番号を指定します。
ComBuff() (OUT) 共通情報構造型。配列で定義してください。
ChBuff() (OUT) チャンネル情報構造型。配列で定義してください。

備考

X軸データが同一点数のデータでできているものに対して、一括してヘッダファイル情報を取り出します。共通情報構造型のバッファは、1要素の配列として用意してください。チャンネル情報構造型のバッファは、チャンネル数分用意してください。

例 (Visual Basic)

```
Dim ret As Long
Dim FileName As String
Dim BlockNo As Long
Dim ComBuff(0) As CommonInf1
Dim ChBuff(5) As ChanelInf1
FileName = "TestData1"
BlockNo = 2
ret = WeDPHeaderReadS(FileName,BlockNo,ComBuff(),ChBuff())
If 0 <> ret Then
    MsgBox "ファイル読み込みでエラー"
End If
```

Note

この関数は「3.5 共通情報構造型・チャンネル情報構造型」で示すように、ヘッダファイル上の一部のデータをまとめて取り出します。対応していない項目を読むときは、WeDPHeaderItemRead(3-19 ページ)を使用してください。

単一ファイルのデータファイル読み込み WeDPDataRead

概要

データファイルからデータをブロック指定で読み出します。

インタフェース

WeDPDataRead(ByVal FileName As String,ByVal BlockNo As Long,ByVal ChNo As Long,ByVal DataForm As Long,ByRef DataBuff As Any)

戻り値

正常終了したときは「0」，異常終了したときはエラーコードを返します。

引数

FileName (IN)	データファイル名。拡張子を除いたファイル名を指定します。
BlockNo (IN)	ブロック番号。
ChNo (IN)	チャンネル番号。1起算です。「-1」は全チャンネルを意味します。 「-1」を指定したときは、DataBuffは、2次元配列で定義されたものを渡してください。
DataForm (IN)	DataBuffの型。BYTE(char), Integer(short), Long(long), Single(float), Double(double)を指定します。それ以外のデータ型は渡せません。()内の型はC言語の型を示します。
DataBuff (OUT)	データ格納バッファ。DataFormで指定した型で渡してください。

備考

データファイルからデータをブロック単位で読み出します。ファイルを連続ファイルとして扱うことはできません。DataFormには、以下の定義データから与えます。

BYTE : WE_UBYTE
Integer : WE_SWORD
Long : WE_SLONG
Single : WE_FLOAT
Double : WE_DOUBLE

例 (Visual Basic)

```
Dim FileName As String
Dim BlockNo As Long
Dim ChNo As Long
Dim DataForm As Long
Dim DataBuff(999,3) As Single
FileName = "TestData1"
BlockNo = 2
ChNo = -1
DataForm = WE_FLOAT
ret = WeDPDataRead(FileName,BlockNo,ChNo,DataForm,DataBuff(0,0))
If 0 <> ret Then
    MsgBox "ファイル読み込みでエラー"
End If
```

単一ファイルのヘッダファイル書き込み WeDPHeaderWriteS

概要

ヘッダファイルヘブロックを指定してヘッダ情報を一括して書き込みます。

インタフェース

WeDPHeaderWriteS(ByVal FileName As String,ByVal BlockNo As Long,ByRef ComBuff() As CommonInf1,ByRef ChBuff() As ChanellInf1,ByRef AcqInfo As AcqDataInfEx)

戻り値

正常終了したときは「0」，異常終了したときはエラーコードを返します。

引数

FileName (IN)	ヘッダファイル名
BlockNo (IN)	ブロック番号。書き込むブロック番号を指定します。
ComBuff() (IN)	共通情報構造型。配列で定義してください。
ChBuff() (IN)	チャンネル情報構造型。配列で定義してください。
AcqInfo (IN)	データ情報構造型(AcqDataInfoEx)。

備考

X軸データが同一点数のデータでできているものに対して、一括してヘッダファイル情報を書き込みます。共通情報構造型のバッファは、1要素の配列として用意してください。チャンネル情報構造型のバッファは、チャンネル数分用意してください。AcqInfoは、WeAcqInfoInitialize()で得られたデータを渡します。または、「3.5 共通情報構造型・チャンネル情報構造型」を参照して作成してください。指定したブロックにデータを書き込みます。

例 (Visual Basic)

```
Dim ret As Long
Dim FileName As String
Dim BlockNo As Long
Dim ComBuff(0) As CommonInf 1
Dim ChBuff(5) As Chanellnf 1
Dim AcqInfo(5) As AcqDataInfoEx
Dim InfoNum As Long
BlockNo = 2
Ret = WeGetAcqDataInfoEx(hMo,-1,BlockNo,AcqInfo(),infoNum)
If 0 <> ret Then
    MsgBox "データ情報読み込みでエラー"
EndIf
FileName = "TestData1"
ret = WeDPHeaderWriteS(FileName,BlockNo,ComBuff(),ChBuff(),AcqInfo())
If 0 <> ret Then
    MsgBox "ファイル書き込みでエラー"
End If
```

単一ファイルのデータファイル書き込み WeDPDataWrite

概要

データファイルへデータをブロック単位で書き込みます。

インタフェース

WeDPDataWrite(ByVal FileName As String,ByVal BlockNo As Long,ByVal SampleNum As Long,ByRef AcqInfo As AcqDataInfoEx,ByVal DataForm As Long,ByRef DataBuff As Any)

戻り値

正常終了したときは「0」、異常終了したときはエラーコードを返します。

引数

FileName (IN)	データファイル名。拡張子を除いたファイル名を指定します。作成したファイルには".wvf"の拡張子が付きます。
BlockNo (IN)	ブロック番号。
SampleNum (IN)	サンプル数。
AcqInfo (IN)	データ情報構造型。WeDPInitializeAcqInfo()で返されたデータを渡します。または、「3.5 共通情報構造型・チャンネル情報構造型」を参照して作成してください。

DataForm (IN)	DataBuffの型。BYTE(char), Integer(short), Long(long), Single(float), Double(double)を指定します。それ以外のデータ型は渡せません。()内の型はC言語の型を示します。
DataBuff (OUT)	データ格納バッファ。DataFormで指定した型で渡してください。2次元配列で定義されたものを渡してください。

備考

データファイルへデータを書き込みます。ファイルを連続ファイルとして扱うことはできません。

DataFormには、以下の定義データから与えます。

BYTE : WE_UBYTE
 Integer : WE_SWORD
 Long : WE_SLONG
 Single : WE_FLOAT
 Double : WE_DOUBLE

例 (Visual Basic)

```

Dim FileName As String
Dim BlockNo As Long
Dim SampleNum As Long
Dim AcqInfo(1) As AcqDataInfoEx
Dim DataForm As Long
Dim DataBuff(999,1) As Single
Dim InfoNum As Integer
BlockNo = 2
SampleNum = 1000
WeGetAcqDataInfoEx(hMo,-1,BlockNo,AcqInfo(),InfoNum)
FileName = "TestData1"
DataForm = WE_FLOAT
ret = WeDPDataWrite(FileName,BlockNo,SampleNum,AcqInfo(),DataForm,DataBuff(0,0))
If 0 <> ret Then
    MsgBox "ファイル書き込みでエラー"
End If
  
```

3.8 連番ファイルアクセス

連番ファイルのヘッダファイル読み込み WeDPHeaderCsReadS

概要

ヘッダファイルからヘッダ情報を一括して読み出します。

インタフェース

WeDPHeaderCsReadS(ByVal FileName As String,ByVal SeriesNo As Long, ByRef ComBuff() As CommonInf1,ByRef ChBuff() As Chanellnf1)

戻り値

正常終了したときは「0」、異常終了したときはエラーコードを返します。

引数

FileName (IN) ヘッダファイル名
SeriesNo (IN) 連番ファイル作成時の連番番号。「-1」のときは、FileNameがそのままファイル名になります。
ComBuff() (OUT) 共通情報構造型。配列で定義してください。
ChBuff() (OUT) チャンネル情報構造型。配列で定義してください。

備考

X軸データが同一点数のデータでできているものに対して、一括してヘッダファイル情報を取り出します。共通情報構造型のバッファは、1要素の配列として用意してください。
チャンネル情報構造型のバッファは、チャンネル数分用意してください。

例 (Visual Basic)

```
Dim ret As Long
Dim FileName As String
Dim SeriesNo As Long
Dim ComBuff(0) As CommonInf1
Dim ChBuff(5) As Chanellnf1
FileName = "TestData1"
BlockNo = 2
ret = WeDPHeaderCsReadS(FileName, SeriesNo, ComBuff(), ChBuff())
If 0 <> ret Then
    MsgBox "ファイル読み込みでエラー"
End If
```

Note

この関数は「3.5 共通情報構造型・チャンネル情報構造型」で示すように、ヘッダファイル上の一部のデータをまとめて取り出します。対応していない項目を読むときは、WeDPHeaderItemRead(3-19 ページ)を使用してください。

連番ファイルのデータファイル読み込み WeDPCsRead

概要

データファイル(連番ファイル)からサンプル数指定でデータを読み出します。

インタフェース

WeDPCsRead(ByVal **FileName** As String,ByVal **SeriesNo** As Long,ByVal **Start** As Long,ByVal **Length** As Long,ByVal **ChNo** As Long,ByVal **DataForm** As Long,BYRef **DataBuff** As Any)

戻り値

正常終了したときは「0」、異常終了したときはエラーコードを返します。

引数

FileName (IN)	データファイル名。拡張子を除いたファイル名を指定します。
SeriesNo (IN)	連番ファイル読み込み時の連番番号。「-1」のときFileNameに指定したファイル名のファイルのみ読み出します。
Start (IN)	開始サンプル番号。0以上の数値で取り出す最初のサンプル番号を指定します。
Length (IN)	取り出すサンプル数。「-1」のときはStartで指定したサンプル以降すべてのデータを意味する。指定した値がファイルに格納されているサンプル数より大きいときはエラーとなります。
ChNo (IN)	チャンネル番号を意味し、「-1」のとき全チャンネルを意味します。1オリジン。
DataForm (IN)	DataBuffの型。BYTE(char), Integer(short), Long(long), Single(float), Double(double)を指定します。それ以外のデータ型は渡せません。()内の型はC言語の型を示します。
DataBuff (OUT)	データを格納するバッファ。DataFormで指定した型で渡します。

備考

データファイルからデータをサンプル数指定で読み出します。

FileNameとSeriesNoで指定されたファイルのStartサンプルからLength分データを取り出します。

DataFormには、以下の定義データから与えます。

BYTE : WE_UBYTE
Integer : WE_SWORD
Long : WE_SLONG
Single : WE_FLOAT
Double : WE_DOUBLE

例(Visual Basic)

```
Dim FileName As String
Dim SeriesNo As Long
Dim Start As Long
Dim Length As Long
Dim ChNo As Long
Dim DataForm As Long
Dim DataBuff(1199,3) As Single
FileName = "TestData1"
ret = WeDPCsRead(FileName,2,100,1200,-1,WE_FLOAT,DataBuff(0,0))
If 0 <> ret Then
    MsgBox "ファイル読み込みでエラー"
End If
```

連番ファイルのヘッダファイル書き込み WeDPHeaderCsWriteS

概要

ヘッダファイルへヘッダ情報を一括して書き込みます。

インタフェース

WeDPHeaderCsWriteS(ByVal [FileName](#) As String,ByVal [SeriesNo](#) As Long,ByRef [ComBuff\(\)](#) As CommonInf1,ByRef [ChBuff\(\)](#) As Chanellnf1,ByRef [AcqInfo](#) As AcqDataInfoEx)

戻り値

正常終了したときは「0」、異常終了したときはエラーコードを返します。

引数

FileName (IN)	ヘッダファイル名
SeriesNo (IN)	連番ファイル作成時の連番番号。「-1」のときは、FileNameがそのままファイル名になります。
CommBuff() (IN)	共通情報構造型。配列で定義してください。
ChBuff() (IN)	チャンネル情報構造型。配列で定義してください。
AcqInfo (IN)	データ情報構造型。

備考

X軸データが同一点数のデータでできているものに対して、一括してヘッダファイル情報を書き込みます。共通情報構造型のバッファは、1要素の配列として用意してください。チャンネル情報構造型のバッファは、チャンネル数分用意してください。AcqInfoは、WeAcqInfoInitialize()で得られたデータを渡します。または、「3.5 共通情報構造型・チャンネル情報構造型」を参照して作成してください。すでにファイルがあるときは、上書きします。

例 (Visual Basic)

```
Dim ret As Long
Dim FileName As String
Dim SeriesNo As Long
Dim CommonBuff(0) As CommonInf1
Dim ChBuff(5) As Chanellnf1
Dim AcqInfo(5) As AcqDataInfoEx
Dim InfoNum As Long
Ret = WeGetAcqDataInfoEx(hMo,-1,5,AcqInfo(),infoNum)
If 0 <> ret Then
    MsgBox "データ情報読み込みでエラー"
End If
FileName = "TestData1"
SeriesNo = 2
ret = WeDPHeaderWriteS(FileName,SeriesNo,CommonBuff(),ChBuff(),AcqInfo())
If 0 <> ret Then
    MsgBox "ファイル書き込みでエラー"
End If
```

連番ファイルのデータファイル書き込み WeDPCsWrite

概要

連番ファイルへデータを書き込みます。

インタフェース

WeDPCsWrite(ByVal **FileName** As String, ByVal **SeriesNo** As Long, ByVal **SampleNum** As Long, ByRef **AcqInfo** As Acq DataInfoEx, ByVal **DataForm** As Long, ByRef **DataBuff**() As Any)

戻り値

正常終了したときは「0」、異常終了したときはエラーコードを返します。

引数

FileName (IN)	データファイル名。拡張子を除いたファイル名を指定します。作成したファイルには"vvf"の拡張子が付きます。
SeriesNo (IN)	連番ファイル作成時の連番番号。「-1」のときFileNameがそのままファイル名になります。
SampleNum (IN)	サンプル数。
AcqInfo (IN)	データ情報構造型。WeDPInitializeAcqInfo()で返されたデータを渡します。または、「3.5 共通情報構造型・チャンネル情報構造型」を参照して作成してください。
DataForm (IN)	DataBuffの型。BYTE(char), Integer(short), Long(long), Single(float), Double(double)を指定します。それ以外のデータ型は渡せません。()内の型はC言語の型を示します。
DataBuff (OUT)	データ格納バッファ。DataFormで指定した型で渡してください。2次元配列で定義されたものを渡してください。

備考

データファイルへデータを書き込みます。

ファイルを連続ファイルとして扱います。SeriesNoが自動的にファイル名に付加されます。

DataFormには、以下の定義データから与えます。

BYTE : WE_UBYTE
Integer : WE_SWORD
Long : WE_SLONG
Single : WE_FLOAT
Double : WE_DOUBLE

例 (Visual Basic)

```
Dim FileName As String
Dim SeriesNo As Long
Dim AcqInfo(2) As AcqDataInfoEx
Dim DataForm As Long
Dim DataBuff(2,1000) As Single
Dim InfoNum As Integer
WeGetAcqDataInfoEx(hMo,-1,2,AcqInfo(),InfoNum)
FileName = "TestData1"
SeriesNo = 2
DataForm = WE_FLOAT
ret = WeDPCsWrite(FileName, SeriesNo,AcqInfo(),DataForm,DataBuff(0,0))
If 0 <> ret Then
    MsgBox "ファイル書き込みでエラー"
End If
```

3.9 ヘッダファイルの指定項目へのアクセス

ヘッダファイルの指定した項目のデータを読み込み WeDPHeaderItemRead

概要

ヘッダファイルのヘッダ情報から指定した項目名・指定したチャンネルの情報を読み出します。

インタフェース

WeDPHeaderItemRead(ByVal FileName As String,ByVal ItemName As String,ByVal ChNo As Long,ByVal BlockNo As Long,ByRef DataBuff As String)

戻り値

正常終了したときは「0」、異常終了したときはエラーコードを返します。

引数

FileName (IN) データファイル名。拡張子を除いたファイル名を指定します。
ItemName (IN) 項目名。
ChNo (IN) チャンネル番号。チャンネル数に関係ない項目を指定した時は無視されます。
BlockNo (IN) ブロック番号。
DataBuff (OUT) データを格納するバッファ。

備考

ヘッダファイル情報から指定した項目・指定したチャンネルの内容を取り出します。

この関数の使用時は、hdrファイルの構造を理解して使用してください。

複数ブロックのあるデータでは、項目名にブロック番号が付きますが、この項目を読むときは、ブロック番号付きの項目名を指定してください。

項目"GroupNumber"および"TraceNumber"は、取り出せません。

例 (Visual Basic)

```
Dim FileName As String
Dim ItemName As String
Dim ChNo As Long
Dim DataBuff As String*256
Dim BlockNo As Long
FileName = "TestData"
ItemName = "VResolution"
ChNo = 1
BlockNo = 0
Ret = WeDPHeaderItemRead(FileName,ItemName,ChNo,BlockNo,DataBuff)
If 0 <> ret Then
    MsgBox "ヘッダファイルの項目読み出しでエラー"
End If
```

ヘッダファイルの指定した項目へのデータ書き込み WeDPHeaderItemWrite

概要

ヘッダファイルのヘッダ情報の指定した項目名・指定したチャンネルへデータを書き込みます。

インタフェース

WeDPHeaderItemWrite(ByVal **FileName** As String,ByVal **ItemName** As String,ByVal **ChNo** As Long,ByVal **BlockNo** As Long,ByRef **DataBuff** As String)

戻り値

正常終了したときは「0」、異常終了したときはエラーコードを返します。

引数

FileName (IN)	データファイル名。拡張子を除いたファイル名を指定します。
ItemName (IN)	項目名。
ChNo (IN)	チャンネル番号。
BlockNo (IN)	ブロック番号。
DataBuff (OUT)	データを格納するバッファ。

備考

ヘッダファイル情報の指定した項目・指定したチャンネルへデータを書き込みます。

項目"FormatVersion", "Model", "Endian", "DataFormat", "GroupNumber", "TraceTotalNumber", "TraceName", "BlockNumber", および"VDataType"は設定できません。

PLinearModeを設定するときは、OFFを「0」、ONを「1」で設定してください。

例 (Visual Basic)

```
Dim FileName As String
Dim ItemName As String
Dim ChNo As Long
Dim BlockNo As Long
Dim DataBuff As String
FileName = "TestData"
ItemName = "VResolution"
ChNo = 1
BlockNo = 0
DataBuff = CStr(5.42)
Ret = WeDPHeaderItemWrite(FileName,ItemName,ChNo,BlockNo,DataBuff)
If 0 <> ret Then
    MsgBox "ヘッダファイルの項目読み出しでエラー"
End If
```

3.10 データ操作

サンプル数・チャンネル数の取得 WeDPGetSampleChNum

概要

指定したファイルのサンプル数・チャンネル数を取得します。

インターフェース

WeDPGetSampleChNum(ByVal **FileName** As String,ByVal **BlockNo** As Long,ByRef **SampleNum** As Long,ByRef **ChNum** As Long)

戻り値

正常終了したときは「0」、異常終了したときはエラーコードを返します。

引数

FileName (IN)	データファイル名。拡張子を除いたファイル名を指定します。
BlockNo (IN)	ブロック番号。「-1」は全ブロックを意味します。
SampleNum (OUT)	サンプル数。
ChNum (OUT)	チャンネル数。

備考

指定したファイルのサンプル数・チャンネル数が返ってきます。
Scan型のファイルの場合、BlockNoの指定にかかわらず、全サンプル数が返ってきます。

例 (Visual Basic)

```
Dim FileName As String
Dim BlockNo As Long
Dim SampleNum As Long
Dim ChNum As Long
FileName = "TestData"
BlockNo = 0
ret = WeDPGetSampleChNum(FileName,SampleNum,ChNum)
If 0 <> ret Then
    MsgBox "サンプル数・チャンネル数の読み出しでエラー"
End If
```

ブロック数の取得 WeDPGetBlockNum

概要

指定したファイルのブロック数を取得します。

インターフェース

WeDPGetBlockNum(ByVal **FileName** As String,ByVal **BlockNo** As Long,ByRef **BlockNum** As Long)

戻り値

正常終了したときは「0」、異常終了したときはエラーコードを返します。

引数

FileName (IN)	データファイル名。拡張子を除いたファイル名を指定します。
BlockNum (OUT)	ブロック数。

備考

指定したファイルのブロック数が返ってきます。

例 (Visual Basic)

```
Dim FileName As String
Dim BlockNum As Long
FileName = "TestData"
ret = WeDPGetBlockNum(FileName,BlockNum)
If 0 <> ret Then
    MsgBox "ブロック数の読み出しでエラー"
End If
```

データ情報構造体にデータをセット WeDPInitializeAcqInfo

概要

データ情報構造体に必要なデータを格納します。

インタフェース

WeDPInitializeAcqInfo(ByVal [VMaxData](#) As Double,ByVal [VMinData](#) As Double,ByVal [SampleNum](#) As Long,ByVal [SampleInterval](#) As Double,ByRef [AcqInfo\(\)](#) As AcqDataInfoEx)

戻り値

正常終了したときは「0」、異常終了したときはエラーコードを返します。

引数

[VMaxData](#) (IN) スケールMax。
[VMinData](#) (IN) スケールMin。
[SampleNum](#) (IN) サンプル数。
[SampleInterval](#) (IN) サンプリング周期(sec)
[AcqInfo\(\)](#) (OUT) データ情報構造体。

備考

データ情報構造体に必要なデータをセットして返します。

VMaxDataとVMinDataは、格納したファイルの測定データをWE7000コントロールソフトの波形モニターで表示したときのY軸のスケール値になります。

本関数によりAcqDataInfoに設定されるデータは、以下のとおりです。

Chanel	配列順に1からnまで設定。
dataType	WeDPDataWrite・WeDPCsWriteの引数でデータバッファ型を設定。
blockNum	1
startBit	0
effectiveBit	0
trigActive	0
record	SampleNum。
recordLen	SampleNum。
time	0
trigPosition	0.0
Interval	引数のSamplingIntervalを設定。
VResolution	1.0を設定。
VOffset	0.0を設定。
TrigLevel	0.0を設定
TrigWidth	0.0を設定。
PlusOverData	引数のVMaxDataを設定。
MinusOverData	引数のVMinDataを設定。

NonData 欠損値を設定。
DispMaxData 引数のVMaxDataを設定。
DispMinData 引数のVMinDataを設定。

例(VisualBasic)

```
Dim VMaxData As Double  
Dim VMinData As Double  
Dim AcqInfo(3) As AcqDataInfoEx  
VMaxData = 2.0  
VMinData = -2.0  
ret = WeDPInitializeAcqInfo(VMaxData,VMinData,1000,0.001,AcqInfo())  
If 0 <> ret Then  
    MsgBox "データ情報構造体のデータ設定でエラー"  
End If
```

3.11 C 言語インタフェース一覧

単一ファイルアクセス

関数名	インタフェース
WeDPHeaderReadS	int WeDPHeaderReadS(char* lpName, UINT blockno, LPSAFEARRAY* ComInfo, LPSAFEARRAY* ChBuff)
WeDPDataRead	int WeDPDataRead(char* lpName, int chno, UINT blockno, UINT dataForm, LPVOID dataBuff)
WeDPHeaderWriteS	int WeDPHeaderWriteS(char* lpName, UINT blockno, LPSAFEARRAY* ComBuff, LPSAFEARRAY* ChBuff, LPSAFEARRAY* AcqInfo)
WeDPDataWrite	int WeDPDataWrite(char* lpName, UINT chNum, UINT blockno, UINT SampleNum, UINT dataForm, LPVOID buf, LPSAFEARRAY* AcqData), LPVOID DataBuff)

連番ファイルアクセス

関数名	インタフェース
WeDPHeaderCsReadS	int WeDPHeaderCsReadS(char* lpName, int seriesNo, LPSAFEARRAY* ComBuff, LPSAFEARRAY* ChBuff)
WeDPCsRead	int WeDPCsRead(char* lpName, int seriesNo, UINT start, int length, int chno, UINT dataForm, LPVOID dataBuff)
WeDPHeaderCsWriteS	int WeDPHeaderCsWriteS(char* lpName, int seriesNo, LPSAFEARRAY* ComBuff, LPSAFEARRAY* ChBuff, LPSAFEARRAY* AcqInfo)
WeDPCsWrite	int WeDPCsWrite(char* lpName, int seriesNo, LPSAFEARRAY* AcqData, UINT dataForm, LPVOID dataBuff)

ヘッダファイルの指定項目へのアクセス

関数名	インタフェース
WeDPHeaderItemRead	int WeDPHeaderItemRead(char* lpName, char* ItemName, UINT ChNo, UINT blockno, char* data)
WeDPHeaderItemWrite	int WeDPHeaderItemWrite(char* lpName, char* ItemName, UINT ChNo, UINT blockno, char* data)

データ操作

関数名	インタフェース
WeDPGetSampleChNum	int WeDPGetSampleChNum(char* lpName, UINT* blockno, UINT* SampleNum, UINT* ChNum)
WeDPGetBlockNum	int WeDPGetBlockNum(char* lpName, UINT* blockNo)
WeDPInitializeAcqInfo	int WeDPInitializeAcqInfo(double VMaxData, double VMinData, double SamplingInterval, LPSAFEARRAY* AcqInfo)

4. エラーコード

シンボル	エラーコード(16進)	説明
AsciiRSLT_NORMAL	0x0000	正常終了
AsciiRSLT_CANT_OPEN	0x0001	ファイルオープン失敗
AsciiRSLT_CANT_ALLOC	0x0002	メモリ確保失敗
AsciiRSLT_FORMAT_ERROR	0x0003	レコードのフィールド数が正しくない
AsciiRSLT_HANDLE_NULL	0x0004	NULL ハンドル
AsciiRSLT_NOT_INTEGER	0x0005	データ型が UINT ではない。GroupNumber, TraceTotalNumber, DataOffset, TraceNumber, BlockNumber, BlockSize は UINT。
AsciiRSLT_POSITION_ERROR	0x0006	記述位置が違う。Group の項目が PublicInfo にあるなど
AsciiRSLT_SCRIPT_ERROR	0x0007	項目記述子に誤りがある。BlockSizeA など
AsciiRSLT_STRING_ERROR	0x0008	Endian, Dataformat に誤りがある。 Endian : Little, Big DataFormat : Trace, Block のいずれか
AsciiRSLT_CANT_READ	0x0009	読み込みに失敗している。“?” など。 Vresolution, Voffset, VUnit, VPlusOverData, VminusOverData, VillegalData, VMaxData, VMinData, Hresolution, HUnit, Date, Time
AsciiRSLT_BOUNDARY	0x000A	範囲指定エラー
AsciiRSLT_READ_ERROR	0x000B	wvf ファイルへのアクセスエラー
AsciiRSLT_UNSUPPORTED_DATATYPE	0x000C	DataType に誤りがある。 IU1, IS1, IU2, IS2, IU4, IS4, FS4, FS8 以外はサポートしていない
AsciiRSLT_LINK_ERROR	0x000D	DLL のリンクに失敗
AsciiRSLT_UNSUPPORTED_FUNCTION	0x000E	指定された DLL ではサポートしていない関数
AsciiRSLT_ZERO_BLOCKSIZE	0x000F	ブロックサイズが 0
AsciiRSLT_UNSUPPORTED_SCALING	0x0010	スケーリング指定の誤り。AsciiADWave, AsciiPhysicalWave, AsciiScalingWave 以外
AsciiRSLT_DISK_FULL	0x0011	ディスクの空き容量不足
AsciiRSLT_MODIFY_ERROR	0x0012	パラメータに誤りがある
AsciiRSLT_ERROR	0x00FF	その他のエラー

W

WeDPCsRead	3-16
WeDPCsWrite	3-18
WeDPDataRead	3-11
WeDPDataWrite	3-13
WeDPGetBlockNum	3-21
WeDPGetSampleChNum	3-21
WeDPHeaderCsReadS	3-15
WeDPHeaderCsWriteS	3-17
WeDPHeaderItemRead	3-19
WeDPHeaderItemWrite	3-20
WeDPHeaderReadS	3-11
WeDPHeaderWriteS	3-12
WeDPInitializeAcqInfo	3-22

ソ

ソフトウェア使用許諾契約書	2
---------------------	---